

令和3年度 外国人指導研究部 主任者会

令和3年4月13日（火）
於：浜松市立佐鳴台小学校

研究主題

自分を見つめ、子どもを見つめる
多文化共生社会で一人一人の学ぶ力を高める指導
～日本人児童生徒との温かな関わりを基盤にした在籍学級での学びを目指して～

1 顧問校長挨拶（南の星小 須藤 邦夫 校長）



2 部長挨拶（佐鳴台小 永田 直美 教諭）



3 発表

「外国人担当としての仕事について」

発表者：和地小 太田 正之 教諭



豊富な指導経験を基に、外国人指導担当教員の役割を分かり易く説明してくださいました。外国人児童生徒の実態を把握し支援計画を練るときの配慮、外国人児童生徒の「居場所」を広げるための支援の重要性、在籍学級で生きる力を育むために誰が何を支援するのか校内職員との多面的な情報共有を図ること等の説明がありました。「校内の連携・共通理解」のみならず、「家庭との連携・共通理解」「外部機関・地域との連携・共通理解」も欠かせないポイントであるとのことでした。

「つかむ・練る」「教える・支援する」「コーディネートする」の3つのキーワードを挙げ、周りとのようにつなぐか、コーディネートする力が求められると、まとめられました。

4 講話

外国人児童生徒の支援について

講師：市教委指導主事 古橋 水無 氏



「外国人児童生徒の支援について」というテーマで、浜松市の日本語指導体制についてお話いただきました。初期適応指導、日本語基礎指導までの流れや、日本語と教科の統合学習、教科の補習、授業への入り込み支援など、それぞれの対象となる児童や支援者、支援内容などについて説明していただきました。特に、本年度から新しいシステムに変わった日本語基礎指導の業務委託について丁寧にお話いただきました。

また、外国人児童生徒が夢をもって学ぶことができるよう、進学を希望する中学生のための「ステップアップクラス」、「ロールモデルの派遣」、「進路について語る会」の紹介もありました。キャリア教育と関わる部分でもあり、校内で情報共有しながら計画的に取り入れていきたいと感じました。

教育委員会作成の事業説明動画（ミライム 映像配信システム）の視聴も取り入れてくださり、浜松市の外国人児童生徒の支援について理解することにつながりました。

支援に必要なのは連携であり、児童生徒の実態をつかみ、どのような時にどこと連携していくのか見極め、実行していくことが大切であるとのことでした。